

# 米国産LNG輸入：LNG市場は2040年頃まで供給能力過剰か

研究主幹 榎本 裕洋

## 日米首脳会談で米国産LNG輸入が話題に

2月7日の日米首脳会談で米国産液化天然ガス（LNG）の輸入が話題となった。この計画には中東産LNG輸入と比較して地理的近接性・輸送経路の安全性・供給安定性・経済安全保障強化といった長所がある。一方、共同声明に「両首脳は、米国の『低廉で』信頼できるエネルギー及び天然資源を解き放ち、双方に利のある形で、米国から日本への液化天然ガス輸出を増加することにより、エネルギー安全保障を強化する意図を発表した」とある通り、投資額（約1,300kmのパイプライン建設が必要）・購入価格・契約期間などの経済性が実現に向けた重要条件となることは言うまでもない。

## LNG市場は2040年頃まで供給能力過剰か。新規投資には悩ましいタイミング。

世界天然ガス需給予測が示す通り、天然ガスの輸出余力は北米と中東が抜きんでている。エネルギー大国ロシアが経済制裁下にあり（日本は今もLNGの10%弱をロシアから輸入）、その一方で中国など新興国のガス需要が急増する中、北米・中東とのエネルギー協力は極めて重要だ。

しかしLNGについては近い将来、供給能力過剰が訪れるという見方もある。IEAのWorld Energy Outlook 2024の「公表政策シナリオ (STEPS = 現行政策分析に基づくシナリオ)」によれば、世界のLNG生産能力は現在5,800億m<sup>3</sup>あり、さらに2,700億m<sup>3</sup>が建設中で、これにより世界のLNG生産能力は2030年に8,500億m<sup>3</sup>に達するという（米国とカタールのLNG生産能力は倍増）。一方、LNGの需要は2035年までは7,000億m<sup>3</sup>程度とLNG生産能力を下回り、EU・中国・日本などの主要輸入地域での価格は6.5～8.5ドル/MBtu（日本の24年平均輸入価格は12.1ドル/MBtu）に下がるとIEAはみている。またこれらの見通しに米トランプ新政権の化石燃料寄りの政策を反映した場合、供給能力過剰がより早く、深刻なものとなる恐れもある。

LNG価格が低迷した場合、懸念されるのは投資の採算性だ。現在建設中の設備は損益分岐点が平均約8ドル/MBtuと推定され、今後更にコストが上昇するリスクもある。LNGへの新規投資を行うにあたって、現在は非常に悩ましいタイミングであるといえる。また世界天然ガス需給予測では、日本の天然ガス需要が原子力発電所の再稼働と再生可能エネルギーの増加により、2023年から2035年の間に約40%も減少するとされている点にも留意が必要だ。

なおIEAはLNG供給能力過剰は2040年頃までに解消し、それ以降は需要が引き続き増加するため2050年までに約1,800億m<sup>3</sup>の追加生産能力が必要となり、その殆どは中東と北米で建設されるとみている。一方、世界のLNG輸入能力（受入基地）は現在約1.5兆m<sup>3</sup>で、1,600億m<sup>3</sup>が建設中であり、これはほとんどのLNG輸入国で輸入インフラが整っていることを示唆している（例外はインド）。

### ▽日本のLNG輸入先上位10カ国（2024年）

|                        | 全体     | 豪州     | マレーシア | 米国    | ロシア   | バングラデシュ | オマーン  | インドネシア | カタール  | ブルネイ  | UAE   |
|------------------------|--------|--------|-------|-------|-------|---------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 数量（10億m <sup>3</sup> ） | 89.6   | 34.2   | 13.9  | 8.6   | 7.7   | 5.0     | 4.6   | 4.3    | 3.9   | 3.7   | 1.3   |
| 数量シェア（%）               | 100    | 38.2   | 15.5  | 9.6   | 8.6   | 5.6     | 5.1   | 4.7    | 4.4   | 4.2   | 1.5   |
| 金額（億円）                 | 62,333 | 24,166 | 9,424 | 5,425 | 5,480 | 3,678   | 2,910 | 3,134  | 2,839 | 2,590 | 941   |
| 単価（円/MBtu）             | 1,833  | 1,863  | 1,783 | 1,659 | 1,869 | 1,946   | 1,664 | 1,942  | 1,914 | 1,833 | 1,893 |

（注）数量は「LNG1トン=1,360m<sup>3</sup>」を用いて計算した。単価は「LNG1トン=51.6MBtu」を用いて計算した。

（出所）財務省 貿易統計

（単位）10億m<sup>3</sup>

### ▽IEA World Energy Outlook 2024による世界天然ガス需給予測

|              |     | 世界    | 北米    | 中東    | ユーラシア | アフリカ | 中南米  | 日本 | 欧州    | 中国  | インド | 東南アジア |
|--------------|-----|-------|-------|-------|-------|------|------|----|-------|-----|-----|-------|
| 2023         | 生産  | 4,218 | 1,323 | 698   | 851   | 262  | 160  | —  | 236   | —   | —   | 193   |
|              | 消費  | 4,186 | 1,175 | 578   | 660   | 182  | 156  | 85 | 507   | 398 | 64  | 175   |
|              | 輸出入 | 32    | 148   | 120   | 191   | 80   | 4    | —  | ▲ 271 | —   | —   | 18    |
| 2030<br>（予測） | 生産  | 4,430 | 1,319 | 903   | 891   | 284  | 164  | —  | 198   | —   | —   | 172   |
|              | 消費  | 4,430 | 1,121 | 702   | 671   | 203  | 168  | 61 | 462   | 499 | 99  | 209   |
|              | 輸出入 | 0     | 198   | 201   | 220   | 81   | ▲ 4  | —  | ▲ 264 | —   | —   | ▲ 37  |
| 2035<br>（予測） | 生産  | 4,422 | 1,241 | 962   | 896   | 298  | 170  | —  | 181   | —   | —   | 152   |
|              | 消費  | 4,422 | 1,028 | 750   | 671   | 219  | 180  | 49 | 407   | 522 | 125 | 231   |
|              | 輸出入 | 0     | 213   | 212   | 225   | 79   | ▲ 10 | —  | ▲ 226 | —   | —   | ▲ 79  |
| 2050<br>（予測） | 生産  | 4,377 | 1,073 | 1,152 | 873   | 314  | 176  | —  | 133   | —   | —   | 122   |
|              | 消費  | 4,377 | 811   | 880   | 669   | 290  | 183  | 41 | 301   | 523 | 172 | 265   |
|              | 輸出入 | 0     | 262   | 272   | 204   | 24   | ▲ 7  | —  | ▲ 168 | —   | —   | ▲ 143 |

（注）ユーラシアはロシアおよびカスピ海周辺国を指す。輸出入は「生産－消費」で、プラスは輸出、マイナスは輸入。

（出所）IEA World Energy Outlook 2024の「公表政策シナリオ（Stated Policies Scenario）」

(執筆者プロフィール)

**榎本 裕洋** (Yasuhiro Enomoto)

Enomoto-Y@marubeni.com

研究主幹

研究分野：マクロ経済全般、CIS（特にロシア）地域事情、総合商社論（歴史）

木材建材第二部、業務部を経て、2001年から丸紅経済研究所（2015～17年 経済同友会出向）。先進国から新興国まで地域横断的にマクロ経済を担当。ロシアをはじめとする旧ソ連地域が注力分野。また「総合商社の研究—その源流、成立、展開（田中 隆之, 2012 東洋経済新報社）」出版にあたって発足した研究会に参加するなど総合商社の歴史についても強い関心を有する。大阪外国語大ロシア語学科卒。

---

## 株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。